

第2章 環境の現状と課題

2-1. 北秋田市のすがた

2-2. 環境要素ごとの現状と課題

2-2-1. 生活環境

2-2-2. 自然環境

2-2-3. 地球環境・資源循環

2-2-4. 歴史・文化的環境

2-2-5. 参加行動

第2章 環境の現状と課題

2-1. 北秋田市のすがた

(1) 位置

北秋田市は秋田県の北部中央に位置し、面積は1152.76平方キロメートルと、秋田県全体の約10パーセントを占めています。

県都秋田市から北東へ約60キロメートル、東は大館市・鹿角市、南は上小阿仁村に隣接しているほか、西は能代市に近接するなど県内主要都市に近く、本市の中心部であるJR鷹ノ巣駅からの距離は、大館市が約17キロメートル、能代市・鹿角市が約30キロメートルとなっています。



(2) 地勢

東西には国道7号線とJR奥羽本線、南北には国道105号、285号、そして、鷹巣と秋田新幹線のおおる角館を結ぶ秋田内陸線、また、東京便が定期便として運航されている大館能代空港が主要な交通網を形成しています。平成28年10月には、日沿道鷹巣大館道路（鷹巣IC～二井田真中IC）が開通したことで、北秋田市から小坂JCTを通り東北自動車道までを結ぶ高速交通体系が確立されました。さらに平成29年度には、大館能代空港ICまでの延長13.9kmが整備される予定になっています。

北部を横断する米代川中流部の鷹巣盆地を中心として、この盆地と米代川の支流である阿仁川や小阿仁川等の河川の流域に優れた農地を形成し、市街地や集落が点在しています。また、県立自然公園に指定されている森吉山麓を中心にクマガラの棲むブナの原生林や多数の瀑布が散在し、優れた自然景観や山岳溪流に恵まれています。

(3) 気候

内陸性で年較差が激しく、冬季は低温で山間部は積雪量が多いため森吉地域、阿仁地域は特別豪雪地帯に指定されています。平成27年は、年間降水量は、1364.5mm、年間平均気温は11℃、最高気温は34.9℃、最低気温は-9.4℃でした（鷹巣観測地）。

(4) 沿革

旧4町は、上小阿仁村を含め「鷹巣阿仁部」として昭和30年の昭和の合併以前から経済・社会面で同一の生活圏を形成し、互いに影響し合いながら歴史を刻んできました。昭和46年には鷹巣阿仁広域市町村圏組合が設立され、広域行政がスタート。秋田内陸線の全線開業や大館能代空港の建設促進などでも協同步調を取ってきました。その後、平成15年6月の鷹巣阿仁地域合併検討準備会発足以来、合併のための協議を重ね、平成17年に新市が誕生、現在に至っています。

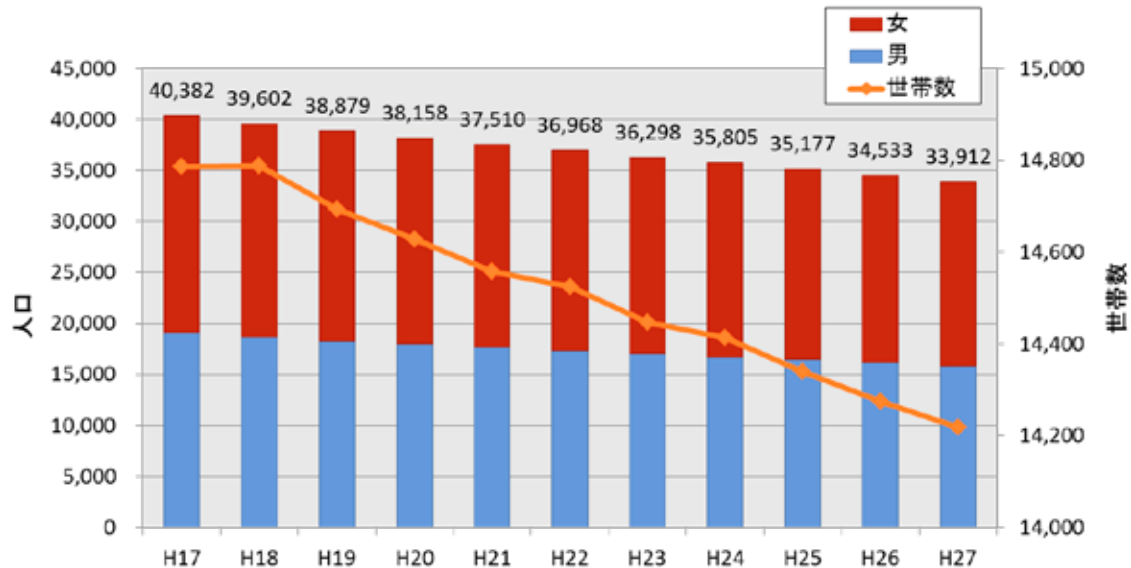
年 月 日	できごと
昭和30年3月31日	上大野村、下大野村、落合村、下小阿仁村が合併し、合川町が誕生。
昭和30年4月1日	阿仁合町と大阿仁村が合併、阿仁町が誕生。 鷹巣町、坊沢村、栄村、沢口村、七座村の5か町村が合併、新鷹巣町が誕生。
昭和30年4月30日	綴子村、七日市村が鷹巣町に編入合併。
昭和31年9月30日	米内沢町と前田村が合併、森吉町が誕生。
平成17年3月22日	鷹巣町、合川町、森吉町、阿仁町が合併し、北秋田市が誕生。

市街地風景



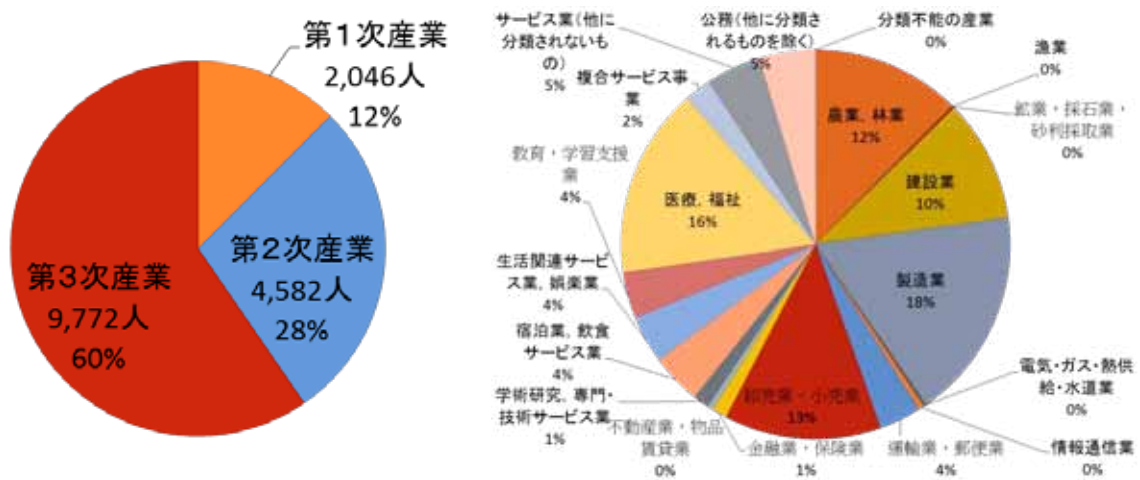
(5) 人口

本市の人口は、平成27年度で、33,912人、世帯数は14,218世帯となっており、少子高齢化等による人口減少が続いています。



(6) 産業構造

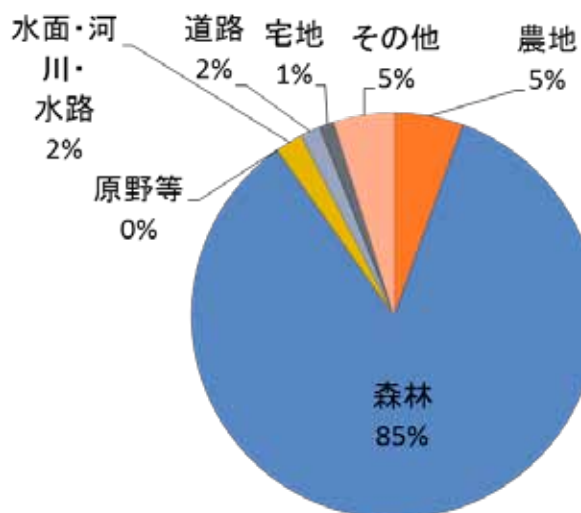
産業は、稲作を中心とした農業や、衣服・木材、電子部品などの製造業、医療・福祉が主で、産業別就業人口では第三次産業が約60パーセントを占めています。



資料：平成22年国勢調査（総務省統計局）

(7) 土地利用

地目別土地利用面積の割合は、森林が最も広く全面積の85%を占めています。



資料：秋田県の土地利用【土地利用に関する概況】平成28年3月（秋田県建設部）

(8) 水利用

本市の水利用として、平成27年度の上水道・簡易水道の使用量などは以下のとおりです。

上水道	給水区域内人口（人）	10,439
	給水人口（人）	9,472
	普及率（%）	90.7
	年間給水量（ m^3 ）	1,077,133
	1人1日平均給水量（ l /人/日）	311
簡易水道	給水区域内人口（人）	23,153
	給水人口（人）	21,965
	普及率（%）	94.9
	年間給水量（ m^3 ）	2,156,321
	1人1日平均給水量（ l /人/日）	269

資料：北秋田市上下水道課

2-2. 環境要素ごとの現状と課題

ここでは、「生活環境」「自然環境」「地球環境・資源循環」「歴史・文化的環境」「参加行動」の5つの分野ごとの現状およびアンケート結果から、本市における課題を抽出します。

アンケートは、本市の環境についての感じることや、関心のあるものなどについて、市民の意見を、本計画に反映させるため、市民、中学生、事業者を対象に実施したものです。

アンケート回収結果

	市民	中学生	事業者
配布数	1,000	195	50
回収数	508	184	35
回収率	51%	94%	70%

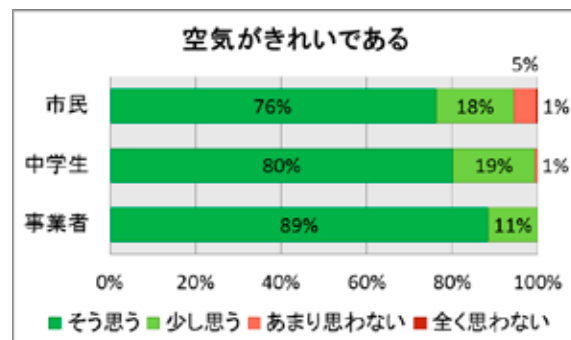
2-2-1. 生活環境

(1) 大気

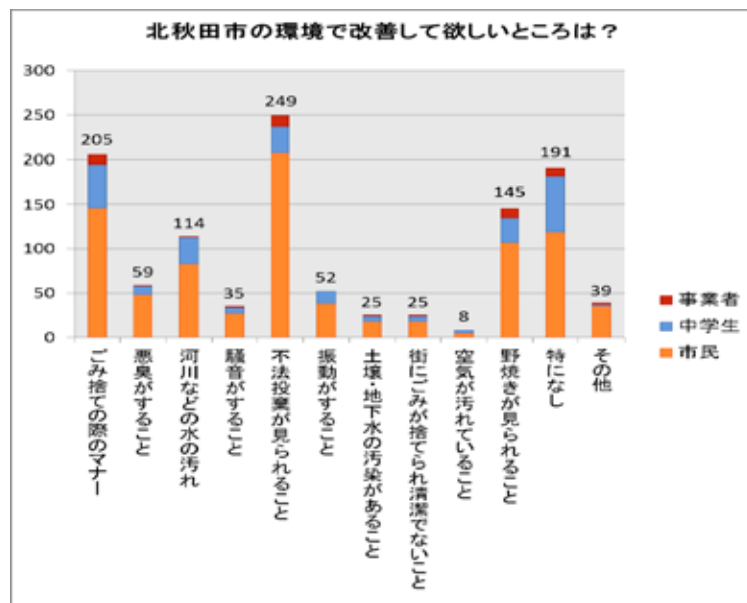
大気汚染の主な原因となるものは、自動車からの排気ガス、事業活動からの排出ガスなどがあり、大気汚染物質による酸性雨・酸性雪などの環境への影響が考えられます。

東北地方の各市が共同で酸性雪の実態調査を実施しており、本市においても、これに加わり調査しておりますが、周辺地域と比較して異常値は観測されておりません。また、市内の身近な生活環境などの放射線量を把握するための調査を平成23年1月から実施しており、これまで毎月測定してきておりますが、秋田県の通常レベルを超える数値は観測されていません。

アンケートによる大気環境についての結果は、空気がきれいだと思うかどうかについて、「そう思う」「少し思う」が、市民、中学生、事業者いずれも9割を超えた回答となりましたので、良好な環境を引き続き維持していく必要があります。



しかし、改善して欲しいところのアンケート結果において、「野焼きがみられること」の回答が多くみられました。野焼きについては、自宅でのごみ焼きや田んぼでの稲わら焼きの苦情相談が寄せられますが、啓発活動や巡回活動の実施により、相談件数については減少傾向にあります。ごみの野焼きは禁止ですが、稲わらなどについては、秋田県条例では毎年10月1日～11月10日を焼却禁止期間として規定しており、当市もその期間中は、農地などでパトロールをしています。野焼きについての防止のための啓発及び巡回活動の強化をしていくことが必要です。



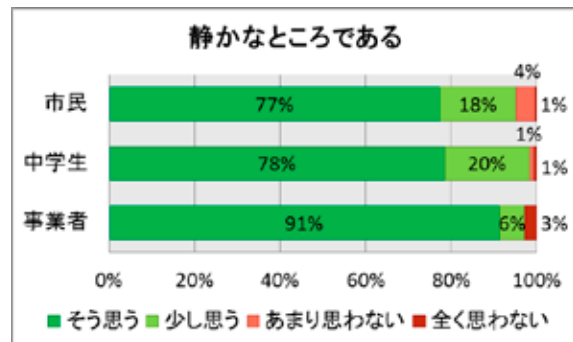
(2) 騒音

騒音には、工場・作業場から生じる工場騒音、建設工事などの作業騒音、自動車・鉄道などの交通騒音、人が生活することによって生じる生活騒音などがあります。本市では、毎年自動車騒音の測定を行っており（表1）、適正な生活環境の維持に努めております。

表1 自動車騒音測定結果（H27）

年度	測定路線	等価騒音レベル (db)		環境基準 (db)	
		昼間	夜間	昼間	夜間
H27	鷹巣川井堂川線	65	57	70	65
H26	坊沢鷹巣線	61	50		
H25	鷹巣川井堂川線	68	57		

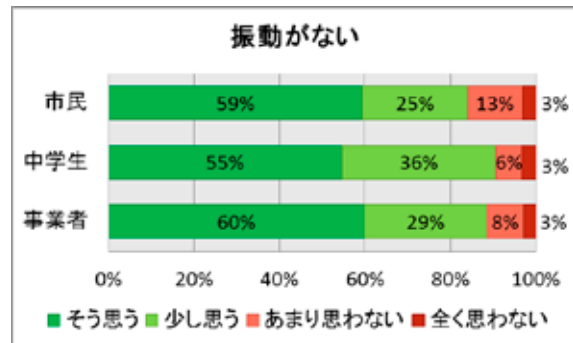
アンケートでは、騒音について改善してほしいという回答は少なく、静かなところであるという意見が9割を超えています。騒音に関する苦情相談の件数は少なく、ほとんどが生活騒音に関することであるため、原因者への立ち入り調査や改善指導をし、良好な環境を維持していく必要があります。



(3) 振動

振動には、工場・作業場や建設工事などから生じる振動や自動車交通からの振動があります。

アンケートでは、振動がないと思うかについて、「そう思う」「少し思う」が、市民、事業者では8割、中学生では9割を超えた回答となりました。

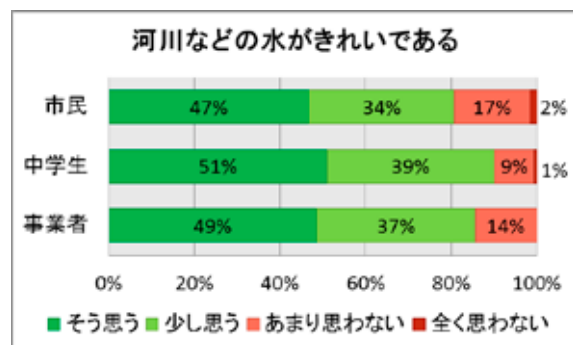


振動に関する苦情相談については、自動車交通による相談がほとんどであるので、道路管理者などと連携した対応が必要です。また、大規模な公共事業などの建設工事の際に生じる騒音に対しては、都市計画や建設事業者と連携した対応が必要になるため、担当部署間で連携して、指導や啓発に取り組んでいく必要があります。

(4) 水質

本市では、河川水の水質検査を4箇所、農業用水路の水質検査を3箇所、下水路の水質検査を6箇所、埋立地最終処分場（栄字徳左エ門谷地、綴子字彦四郎沢旧埋立地、旧阿仁町一般廃棄物最終処分場）の放流水などの水質検査を毎年行い、適正な水環境管理に努めております。また、米代川、阿仁川等は、国や県において水質調査を実施しており適正に管理されております。さらに市においても、河川において水道水の供給のための水質検査をしており、水道水の安定供給が図られています。

アンケートでは、河川の水がきれいだと思うかについて、「そう思う」「少し思う」が、市民、事業者では8割、中学生では9割を超えた回答となりました。きれいな水環境維持していくために、水質保全の啓発や水質検査を継続していく必要があります。



また、交通事故や燃料タンク破損による河川などへの油の流入については、事故発生から早急に対応することが重要です。本市では、消防署と連携し、油漏れ事故に対する初動マニュアルを作成しています。引き続き事故防止の啓発や連携体制の維持が必要です。



阿仁川 阿仁前田河川公園



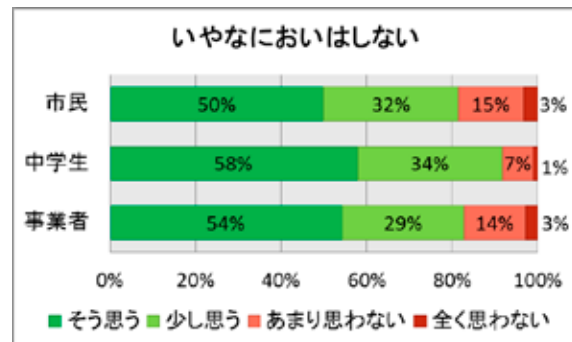
水質事故対応講習会:オイルフェンス設置訓練

(5) 臭気

臭気は、人のにおいに対する感覚に左右されること、風向きなどの気象条件に左右されやすいことなどから、取扱いが難しい問題です。原因の多くは日常生活や事業活動によるものです。

アンケートでは、いやなにおいがしないかについて、「そう思う」「少し思う」が、市民、中学生、事業者いずれも8割を超えた回答となりました。

悪臭についての苦情の相談は、畜産関係や排水関係が多いです。苦情があった場合には、原因者に対して改善指導を実施しており、今後も保健所などと連携を図りながら、パトロールの実施や悪臭発生源の対策について指導していく必要があります。



(6) 土壌

土壌汚染の原因は、廃棄物に含まれている有害物質が廃棄物とともに埋立処分されることや、有害物質に汚染された水が土中に浸透することなどが考えられます。

市民から土壌に関する苦情相談はほとんど生じておらず、旧鉱山や埋立地からの浸出水などの採水結果からも水質汚染の結果は見られていないため、土壌汚染はないと思われま。アンケートにおいても土壌・地下水汚染があることについては、意見も少ない結果となりました。

今後も水質検査などの結果を確認し、監視を続けながら良好な状態を保つことが必要です。



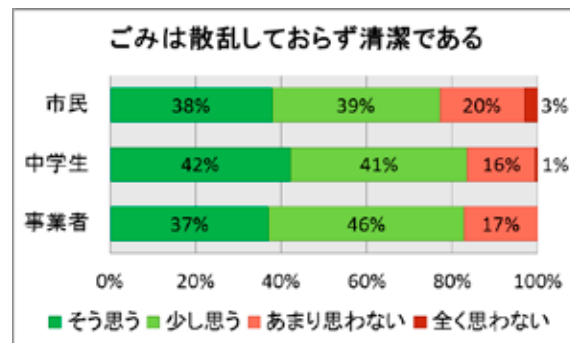
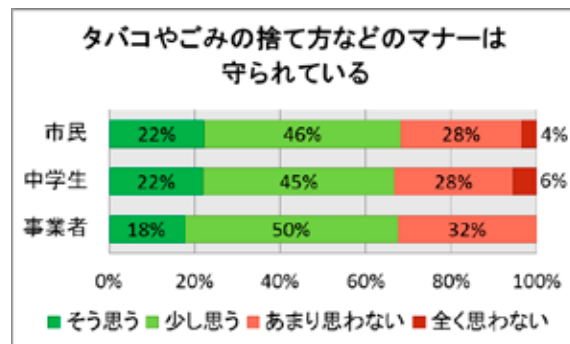
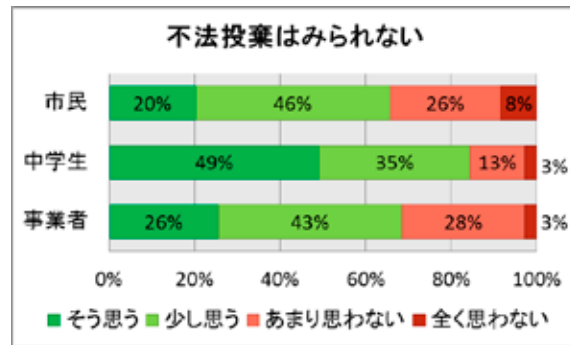
旧鉱山からの浸出水

(7) 廃棄物の不適正処理

本市では、不法投棄監視員を委嘱し、巡回や不法投棄防止看板の設置などの対策をしておりますが、悪質なポイ捨てや不法投棄が依然として見られます。

アンケートでは、不法投棄はみられないと思うかについて、「そう思う」「少し思う」が、市民、事業者で7割を下回りました。また、北秋田市の改善点として、市民、事業者からは不法投棄が、中学生ではごみ出しのマナーが最も必要な改善点という結果になりました。さらに、タバコやごみの捨て方のマナーが守られているかどうかについては、3割以上が「あまり思わない」、「思わない」という結果になりました。

不法投棄やポイ捨てなどの対策を強化するため、保健所や警察署などと連携を図りながら、市民及び事業者のモラル向上のための啓発を続け、まちの美化を図る必要があります。



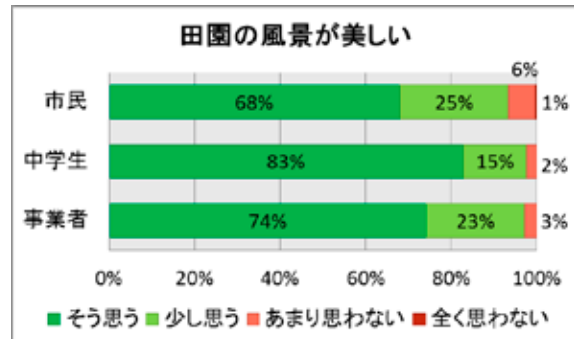
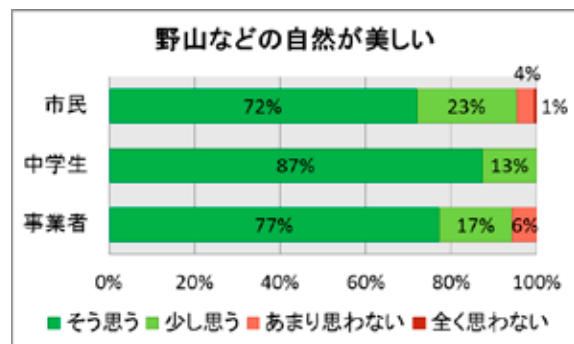
2-2-2. 自然環境

(1) 森林、田園

本市は、面積の85%が森林です。森林は、国土保全、水源かん養、土砂災害の防止、生態系の保全等の多面的な機能を持っており、建築物などにおける木材の需要もあります。このような森林環境を次世代に残していくためにも、森林の資源としての利活用と保全のバランスを考えた適正な維持管理が必要です。

また、市の5%の面積が農地です。農業従事者の高齢化や後継者不足による離農などに伴い、遊休農地や耕作放棄地も増加しており、このことが景観の低下や不法投棄などに繋がると共に、野生動物（シカ・イノシシ・熊）などによる、住み慣れた住居環境の悪化などが予想されます。

アンケートでは、野山などの自然が美しいと思うか、田園の風景が美しいと思うかについて、「そう思う」「少し思う」が、市民、事業者いずれも9割以上の回答でした。このような市民意識を保つために、上記の課題への対策をしていく必要があります。



(2) 動植物

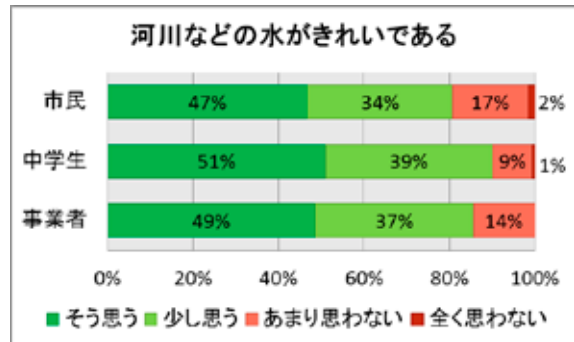
本市には、数多くの緑や自然と触れ合う場所があり、昆虫や鳥などの動物に出会うことができます。森吉山は「花の百名山」として初夏から秋にかけて約300種類ともいわれる高山植物が咲き誇ります。また、ブナ原生林には天然記念物のクマゲラが生息しているほか、希少な猛禽類が確認されるなど豊かな生態系が維持されています。

しかしながら、豊かな生態系がある中でも、2002年に秋田県が発刊した「秋田県の絶滅のおそれのある野生生物 2002—秋田県版レッドデータブック—動物編・植物編」によると、絶滅の危険性がある野生生物が計1,235種指定されています。その後、分類群ごとにレッドリスト、レッドデータブックが発刊されてきており、最近では「秋田県の絶滅のおそれのある野生生物—秋田県版レッドデータブック 2016—動物 I」が発刊されました。野生生物の生息・生育環境は私たちの土地利用などによって常に変化しています。動植物の生息地を維持し、豊かな生態系を後世に引き継ぐために、こうした資料を活用し、多様な野生生物の現状を把握し、その保護対策を強化し、生息・生育環境の保全に取り組む必要があります。

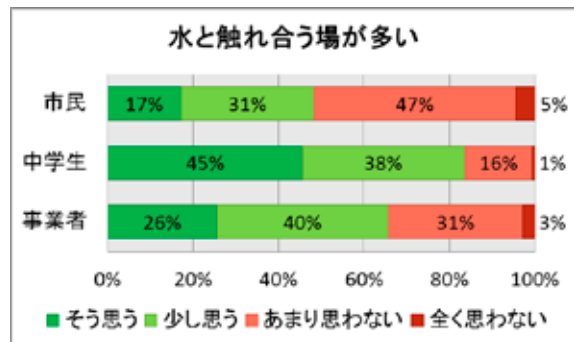


(3) 河川、湖沼

本市には、一級河川の米代川や、その支流の阿仁川、小猿部川など複数の河川が流れており、河川ではアユなどの川魚が多く見られ、市内外から川釣りをしている人も多くみられます。四季美湖や太平湖など美しい景観の湖沼もある本市は水辺と触れ合う場に恵まれています。しかし、水辺や河川敷にはごみのポイ捨てなども見られます。



アンケートでは、河川などの水がきれいであるかについて、「そう思う」「少し思う」が、市民、中学生、事業者いずれも8割を超えた回答となりました。一方、水と触れ合う場が多いと思うかについては、「そう思う」、「少し思う」が市民では5割以下の回答となりました。



河川の水質悪化の原因の一つとして、生活排水の流入があります。本市の汚水処理人口は下記のとおりです(表2)。下水道や浄化槽などの生活排水処理施設の整備を促進して、河川の水質保全を図る必要があります。また、ごみのポイ捨てなどによる景観や水質の悪化を防ぐため、清掃活動の周知や参加啓発などをして、水環境を大切にする意識の高揚を図る必要があります。

市民に親しまれるような水と触れ合う場所の創出や、イベントなどでの活用に向けて、河川管理者や事業者などと連携して、動植物の生育環境や景観に配慮した河川、湖沼の水環境づくりが求められます。

表2 北秋田市の汚水処理人口普及率(H27)

公共下水道		農業集落排水		合併処理浄化槽		汚水処理人口計	
処理人口 (人)	普及率 (%)	処理人口 (人)	普及率 (%)	処理人口 (人)	普及率 (%)	処理人口 (人)	普及率 (%)
17,053	50.3	6,264	18.5	4,244	12.5	27,561	81.3

資料 2016あきたの下水道〔資料編〕(秋田県建設部)

2-2-3. 地球環境・資源準看

(1) 廃棄物の発生抑制

本市の一般廃棄物の搬入量は下記のとおりです（表3）。平成27年度のごみの総排出量は、11,285トンです。これは市民1人が1日につき約1kgのごみを出しているということになります。また、経年の変化を見ると、人口が減っているにもかかわらず、ごみの排出量は増加しています。原因として、家庭から排出されるごみの量は減少していますが、事業者から排出されるごみの量が増加していることがあります。

表3 ごみの排出量の推移

	H23	H24	H25	H26	H27
総排出量(t)	11,422	11,701	11,636	11,271	11,285
資源化量(t)	1,746	1,699	1,711	1,513	1,506
リサイクル率(%)	15.3	14.5	14.7	13.4	13.3
総人口(人)※	36,669	36,015	35,559	34,919	34,273
市民1人1日あたり(g/日)	853	890	897	884	902
ごみ処理費用(千円/年)	474,855	417,885	439,763	460,332	510,203

※総人口については、住民基本台帳に基づく人口（各年10月1日時点）

資料：一般廃棄物処理事業実態調査（環境省）、北秋田市生活課

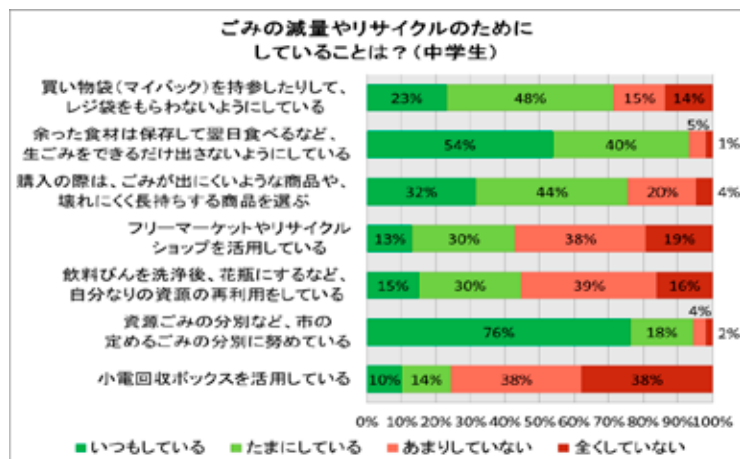
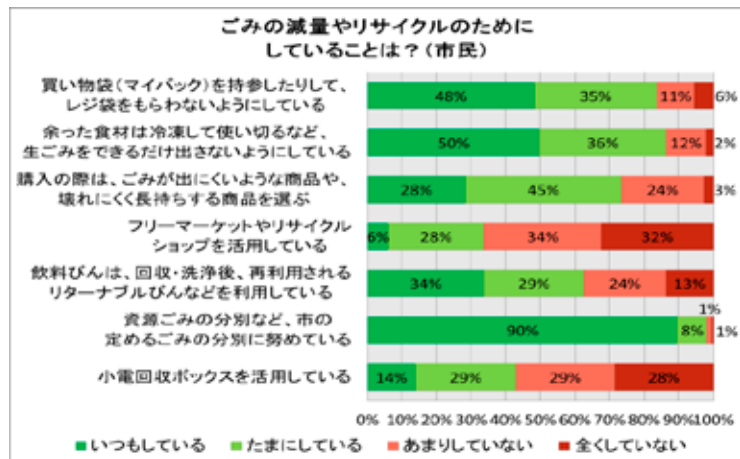
一般家庭のみならず、事業者にもごみの排出抑制を啓発し、市としてのごみの排出量を削減するために取り組んでいかなければなりません。



(2) 3R

家庭ごみの分別については、可燃ごみ、不燃ごみ、資源ごみの3種に分かれており、本市の資源ごみの分別数は13種類（アルミ缶、スチール缶、びん（3色）、紙（紙パック、新聞紙、ダンボール、雑誌類）、ペットボトル、白色トレイ、容器プラスチック類、包装プラスチック類）と県内では2番目に多く、資源ごみの分別回収も早期から実施してまいりました。現在は、不燃ごみと資源ごみのリサイクルに取り組んでいますが、本市のリサイクル率は平成27年度で約13%であり、全国値の20%と比べ低い値となっております。

アンケートでは、ごみの減量やリサイクルのためにしていることについて、資源ごみの分別に努めているという回答は「いつもしている」がほとんどでしたが、その他のリユースやリデュースに関する項目は、あまり実施されていない結果となりました。また、平成25年度から実施している小電回収についても、利用率が少ない結果となりました。



家庭ごみ搬入量の経年変化（表4）をみると、可燃ごみと不燃ごみは増加していますが、資源ごみは減少しています。燃やせるごみであっても、資源ごみに出せるものは出来るだけ資源ごみに出してもらおうなど、ごみに関する意識の向上を図り、リサイクル率を高めていく必要があります。

表4 家庭ごみの排出量の推移

	H23	H24	H25	H26	H27
総排出量(t)	9,053	9,287	9,142	8,771	8,679
市民1人あたり(g/日)	676	706	704	688	694
うち可燃物(g/日)	534	562	558	554	562
うち不燃物(g/日)	30	32	34	32	33
うち資源化物(g/日)	112	112	113	102	99

資料：北秋田市生活課



収集した資源ごみは、クリーンリサイクルセンターで一時保管し、リサイクル業者へ引き渡しています。



(3) 地球温暖化、省エネルギー

地球温暖化は、人間活動の拡大による温室効果ガスが大量に排出されることで、太陽の熱が地上に封じ込められてしまうことによって起きる現象です。温室効果ガスは、自動車の排気ガスや、火力発電によって生じる二酸化炭素などであるため、私たちが省エネルギーに努めることが、地球温暖化の防止につながります。

アンケートでは、節電や節水を取り組んでいるという回答は多くみられました。一方、自動車保有台数がほぼ一世帯に2台程度(表5)となっている本市において、自動車は生活するうえで欠かせないものであることから、車を使わず公共交通機関を利用して・呼びかけているという回答は少ない結果となっています。しかし、アイドリングストップを実践しているという回答は半数以上でしたので、車を使用する際にもアイドリングストップなどのエコな行動を心がけるよう啓発していく必要があります。

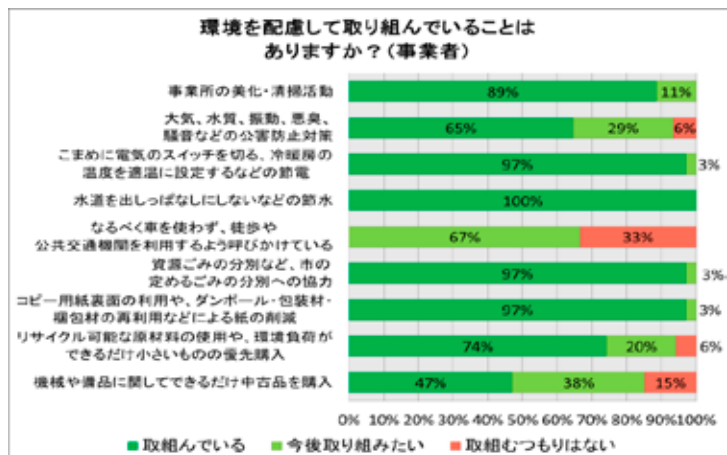
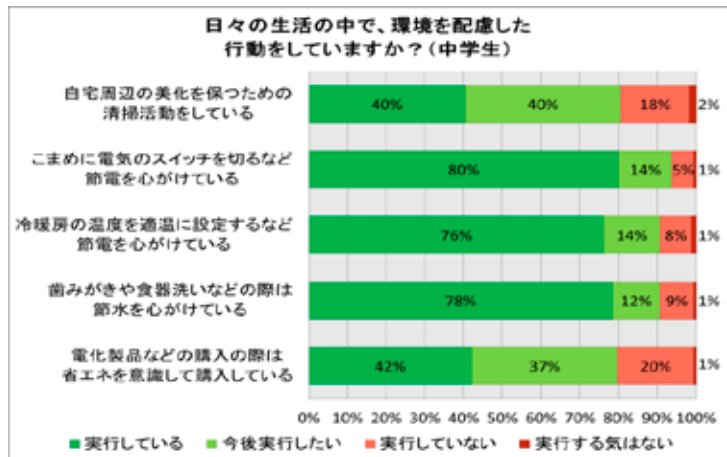
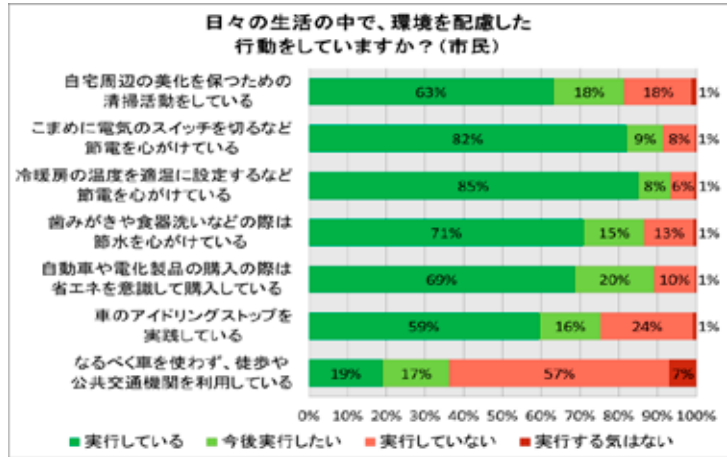


表5 北秋田市の自動車保有台数

	乗用	軽自動車	合計台数	世帯数	台/世帯
平成17年	13,584	10,881	24,465	13,666	1.79
平成22年	12,210	11,640	23,850	12,838	1.86

資料：国土交通省東北運輸局

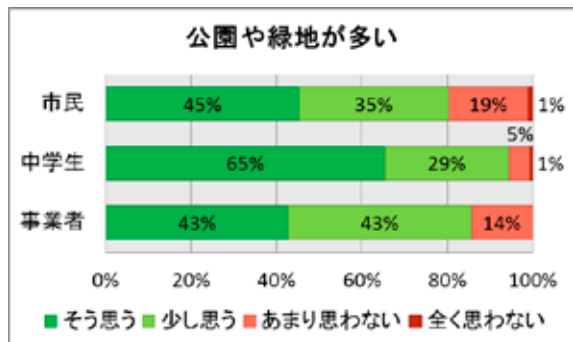
市民、事業者へのクールビズ・ウォームビズによる省エネ活動や、低公害車などの普及啓発を図り、一層の省エネルギーの推進に努める必要があります。また、本市の温室効果ガス排出量を把握し、削減目標を設定するなど計画的に対策を講じるため、温暖化対策計画などの策定に向けた検討をしていく必要があります。

2-2-4. 歴史・文化的環境

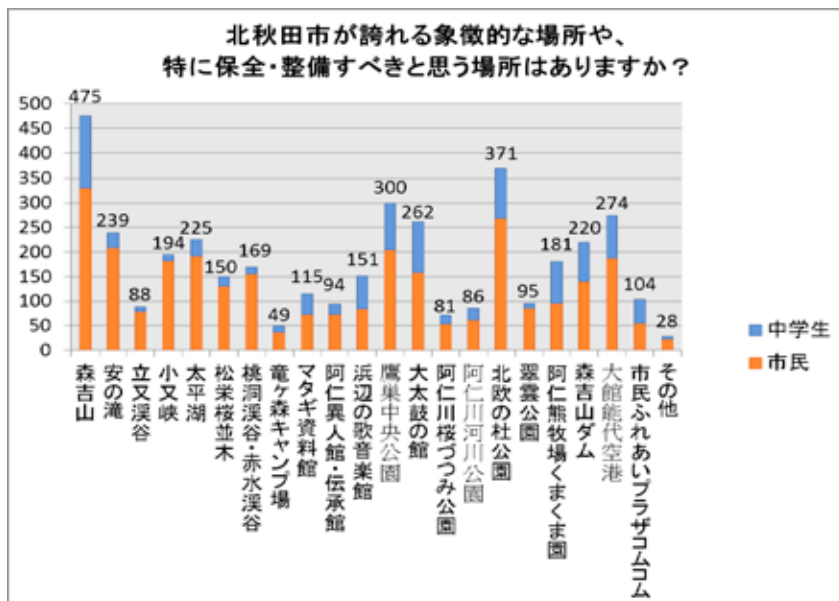
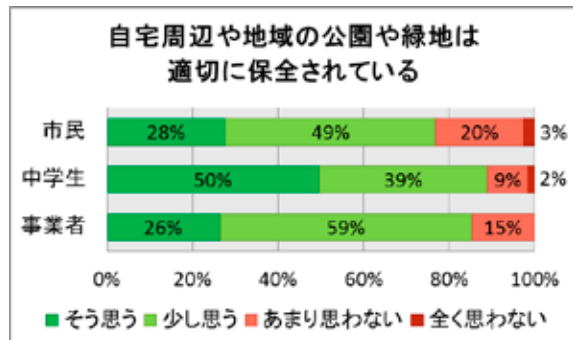
(1) 公園、緑地

本市には、県立自然公園の森吉山、県指定自然環境保全地域が3地点、県指定緑地環境保全地域が1地点あり、優れた自然景観にめぐまれています。また本市には60個の公園があり、イベントで使用するなど、自然憩いの場となるよう管理をしております。

アンケートでは公園や緑地が多いと思うかについて8割以上が「そう思う」、「少し思う」という回答となり、公園や緑地は適切に保全されているかどうかについても、8割以上が「そう思う」、「少し思う」という回答となりましたので、今後も引き続き適切な管理が必要です。



なお、北秋田市が誇れる象徴的な場所や、特に保全・整備すべきと思う場所として森吉山が最も多い回答となり、北欧の杜公園や鷹巣中央公園など、公園を選択する回答が上位を占める結果となりました。



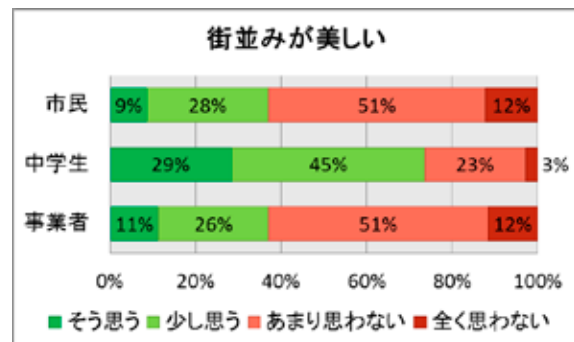
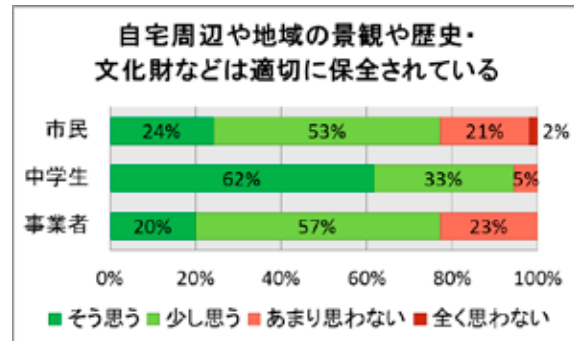
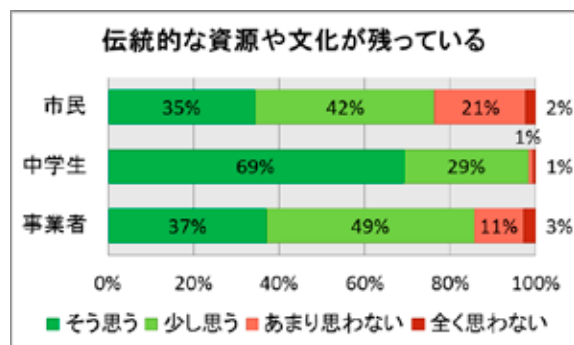
(2) 文化財、景観

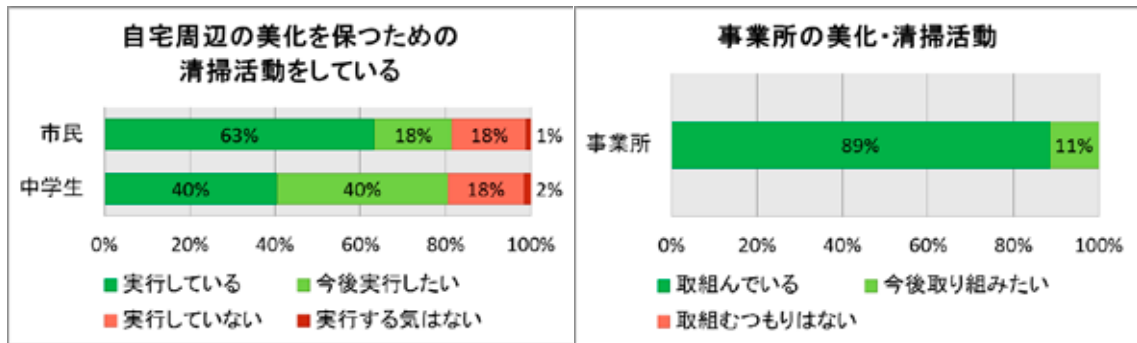
本市には、国定指定文化財が8件、県指定文化財が12件、市指定文化財が73件あり、歴史的・文化的建造物や伝統芸能などが大切に保存されています。史跡や民俗芸能などの文化財は、その地域の歴史に関心を高める役割と、民俗芸能をとおした地域住民の絆を結びつける役割を果たしてきました。また、太鼓の博物館「大太鼓の館」や毎年開催している「北秋田市民俗芸能大会」などをとおして、より市民に民俗芸能への理解と関心を深めていただき、保存・伝承していくよう努めています。

アンケートでは伝統的な文化や資源が残っているかについては、「そう思う」「少し思う」が、市民で7割以上、中学生で9割以上、事業者で8割以上の回答となりました。また、景観や歴史・文化財などは適切に保全されているかについては、8割近くが「そう思う」、「少し思う」という回答になりました。

街並みが美しいかについては、「そう思う」「少し思う」が、市民と事業者では4割以下となりました。その原因として、街中に落ちているごみや、増加している空き家・空き地、カラスのふん害、道路沿いの雑草を例に挙げている回答が多くありました。

歴史や伝統を伝承していくため文化財を維持管理し、歴史・文化に触れる機会を作ることが必要です。また、まちの美化活動を実施、啓発し、景観の維持をしていく必要があります。





北秋田市 文化財 MAP



凡例	
★	国指定文化財
■	県指定文化財
●	市指定文化財
...	(市) 民俗芸能
▲	国選択記録文化財

東京からのアクセス

主要駅

JR鷹ノ巣駅
秋田内陸縦貫鉄道(内陸線)鷹巣駅

新幹線1 (約4時間30分～5時間30分)

東北新幹線JR東京駅 → JR新青森駅【乗換】
奥羽本線JR新青森駅 → JR鷹ノ巣駅

新幹線2 (約5時間20分～6時間)

東北新幹線JR東京駅 → JR角館駅【乗換】
内陸線角館駅 → 内陸線鷹巣駅

飛行機 (約70分)

羽田空港 → 大館能代空港 (1日2往復)
※大館能代空港からJR鷹ノ巣駅へのリムジンバスあり

車 (600～700km)

東北自動車道で北秋田市まで約8時間

バス (約9時間)

深夜高速バス「ジュビター号」
JR池袋駅大宮駅前バス停 → 北秋田市(いとく鷹巣SC降車)

★「絹本着色松に唐鳥図」佐竹嘯山筆
現在は秋田県立近代美術館(横手市)で保管・展示。公開は不定期。
詳細は秋田県立近代美術館までお問い合わせください。

拡大マップA 綴子・大太鼓の館周辺



拡大マップB 鷹巣駅・鷹巣市街周辺



拡大マップC 伊勢堂岱遺跡周辺



拡大マップD 本城地区周辺



拡大マップE 阿仁合駅周辺



市内の文化財指定件数

- 国指定 (8件)
 - ・重要文化財 4
 - ・重要有形文化財 1
 - ・重要無形民俗文化財 1
 - ・史跡 1
 - ・天然記念物 1
- 国選択 (4件)
 - ・記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財 4
- 市指定 (73件)
 - ・有形文化財 29
 - ・無形民俗文化財 18
 - ・史跡 16
 - ・天然記念物 9
 - ・名勝 1
- 県指定 (12件)
 - ・有形文化財 7
 - ・無形民俗文化財 2
 - ・史跡 2
 - ・名勝・天然記念物 1

平成27年4月1日現在 計 97件

2-2-5. 参加行動

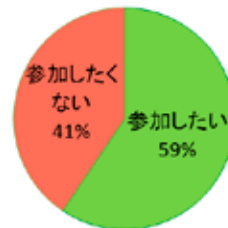
(1) ボランティア活動、環境学習

本市では、環境に関するボランティア活動として、年に2回のクリーンアップを実施しており、毎年約10,000人に参加いただいています。また、秋田県や近隣市町村、関係団体などが主催している不法投棄一掃活動、米代川流域清掃などの活動に参加しています。

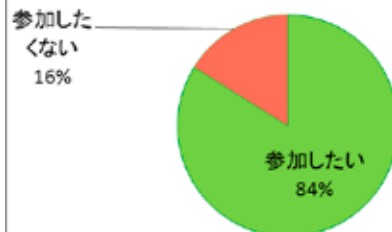
アンケートでは、ボランティア活動に参加したいと思う割合は市民、中学生、事業者いずれも過半数を超えました。また、実際にボランティアに参加したことがあるかどうかについては、周辺地域のボランティアではいずれも6割以上、民間企業などが主催するボランティアで4割程の参加経験があるという結果になりました。

参加率の増加や、ボランティア活動を通じ環境に触れる機会の増加を図るために、市民、事業者、学校などへの情報提供や啓発が必要です。

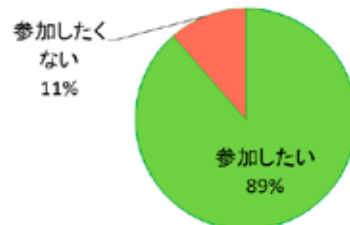
環境に関するボランティア活動に参加したいと
思いますか(市民)




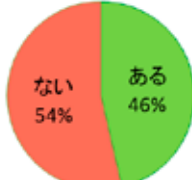




環境に関するボランティア活動に参加したいと
思いますか(中学生)



環境に関するボランティア活動に参加したいと
思いますか(事業者)



<p>自宅周辺や地域での環境に関するボランティア活動に参加したことがありますか(市民)</p>  <p>ない 38% ある 62%</p>	<p>市や民間団体等が主催する環境に関するボランティア活動に参加したことがありますか(市民)</p>  <p>ない 62% ある 38%</p>
<p>自宅周辺や地域での環境に関するボランティア活動に参加したことがありますか(中学生)</p>  <p>ない 29% ある 71%</p>	<p>市や企業等が主催する環境に関するボランティア活動に参加したことがありますか(中学生)</p>  <p>ない 54% ある 46%</p>
<p>事業所周辺や地域での環境に関するボランティア活動に参加したことがありますか(事業者)</p>  <p>ない 37% ある 63%</p>	<p>市や民間団体等が主催する環境に関するボランティア活動に参加したことがありますか(事業者)</p>  <p>ない 51% ある 49%</p>



また、環境問題に触れる機会として、イベントへの参加も考えられます。アンケートでは、環境保全や環境学習の機会については、8割以上が「満足」、「ほぼ満足」の回答となりました。なお行政に望むこととして、市からの情報提供や、広報の充実さが高い結果となりました。市や各種団体が主催する環境に関するイベントの広報活動や支援が必要です。

